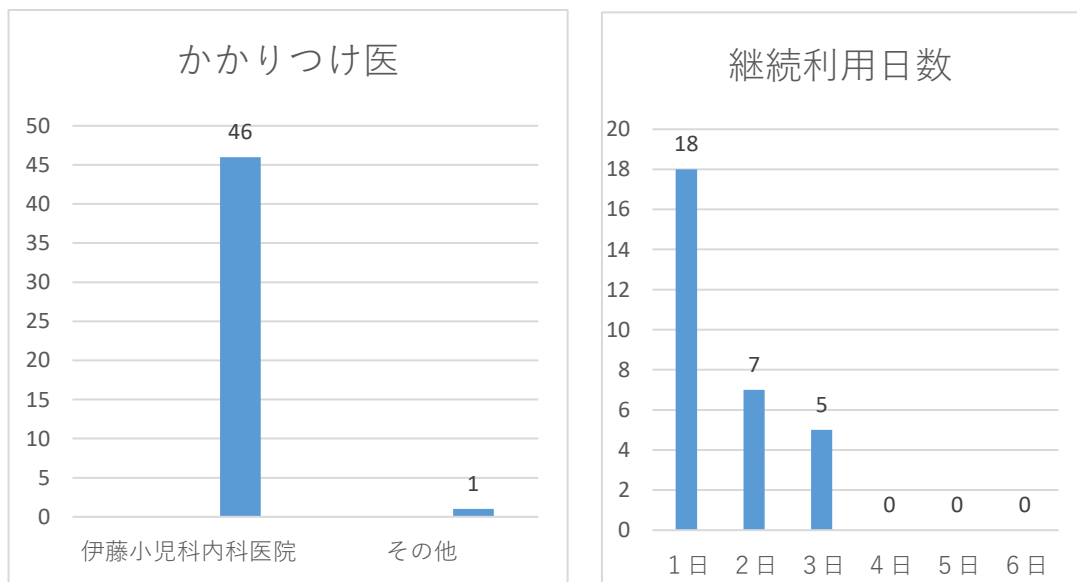
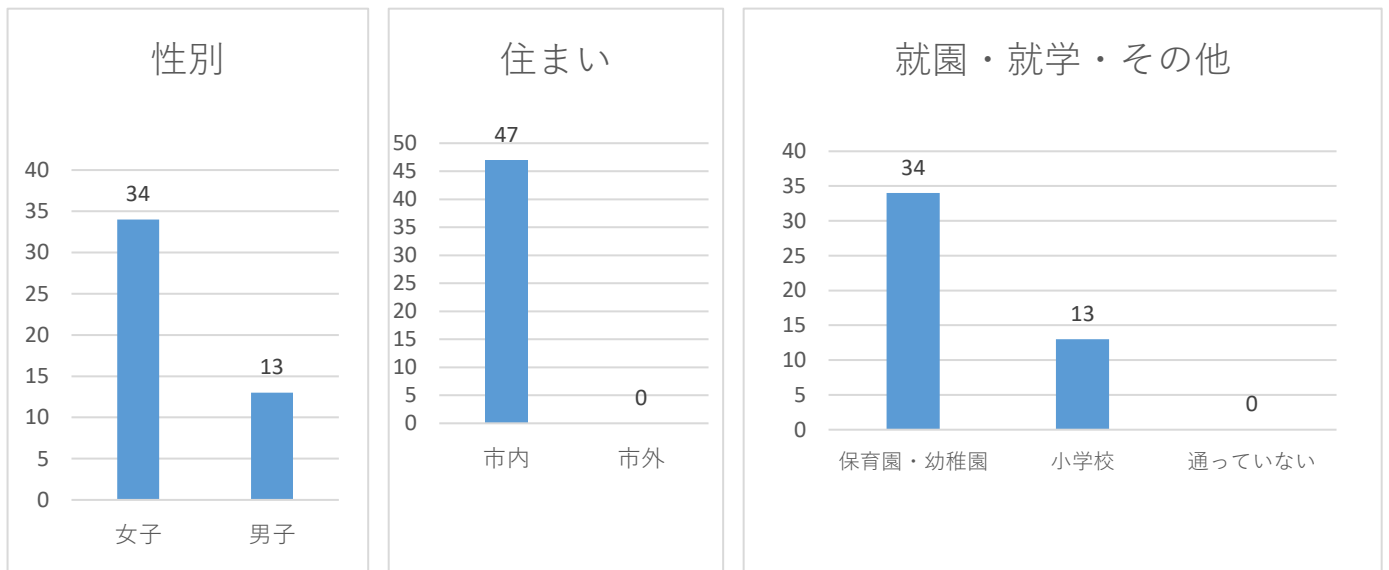




夏の訪れを感じる季節になりました。気温の温度差や湿度の高さもあり、体調を崩しやすい時期です。暑いと冷たい飲み物や食べ物をいつも以上に摂ってしまいがちですが、摂りすぎて体が冷えないよう気を付けましょう。さて、先月の病児保育園おひさまのご利用状況は以下の通りです。伊藤小児科・内科医院での感染症状況もあわせてお知らせいたしますのでご参考にしてください。

☆病児保育園おひさま 利用者状況 5月分 (31日締め) ☆



## ☆病児保育園 利用者情報 5月分 (31日締め) ☆

病名	年齢	0歳児	1歳児	2歳児	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
風邪		5	1	5					3			3		17
突発性発疹		1												1
気管支炎				1										1
胃腸炎		4		1					3					8
インフルエンザB												2		2
咽頭アデノウイルス			8											8
乳糖不耐症		4												4
マイコプラズマ肺炎		5												5
ノロウイルス			1						2					3
手足口病			1											1
合計		19	11	7	0	0	0	0	8	0	0	5	0	50

\* 併発している疾患もすべて含む。

## ☆伊藤小児科・内科医院 感染症情報 5月分 (31日締め) ☆

病名	週	5月 (第1週)	(第2週)	(第3週)	(第4週)	(第5週)	合計
インフルエンザA		1	2	2	2	0	7
インフルエンザB		7	9	7	4	4	31
RSウイルス		1	1	1	0	1	4
咽頭アデノウイルス		8	11	12	15	4	50
溶連菌感染症		8	7	16	10	7	48
マイコプラズマ肺炎		2	2	2	11	3	20
便アデノウイルス		0	5	3	1	0	9
ノロウイルス		2	5	2	4	2	15
ロタウイルス		1	9	3	2	3	18
合計		27	37	43	49	19	202

### 伊藤先生コラム



#### 熱中症に注意しましょう

5月に入り、インフルエンザは減少してきましたがマイコプラズマやアデノウイルス、さらにノロウイルス、ロタウイルスなどの感染性胃腸炎が増加しています。うがい、手洗い、マスク着用で予防しましょう。また、胃腸炎のお子さんの便と嘔吐物の処理には十分注意し感染の拡大防止に努めましょう。

暑い日が増え、熱中症シーズンになってきました。乳幼児は体温調節が未熟で体温が上がりやすく、地面の反射熱の影響を受けやすいため、熱中症にかかりやすく屋内屋外を問わず十分注意が必要です。発熱、嘔吐、頭痛などの初期症状から、重症化すると痙攣をおこしたり、意識がなくなったりします。水分をこまめに摂る、帽子などで直射日光を避ける、コンクリートやアスファルトの上で遊ばせないなどの予防対策が大切です。熱中症の症状が出たら、すぐに涼しい場所に移動しアイスノンなどで体を冷やしましょう。首の付け根を冷やすと、冷えた血液が全身に回るので体温が下がりやすくなります。また、外遊びの時、冷たいタオルを首に巻くと熱中症の防止にも役立ちます。

